

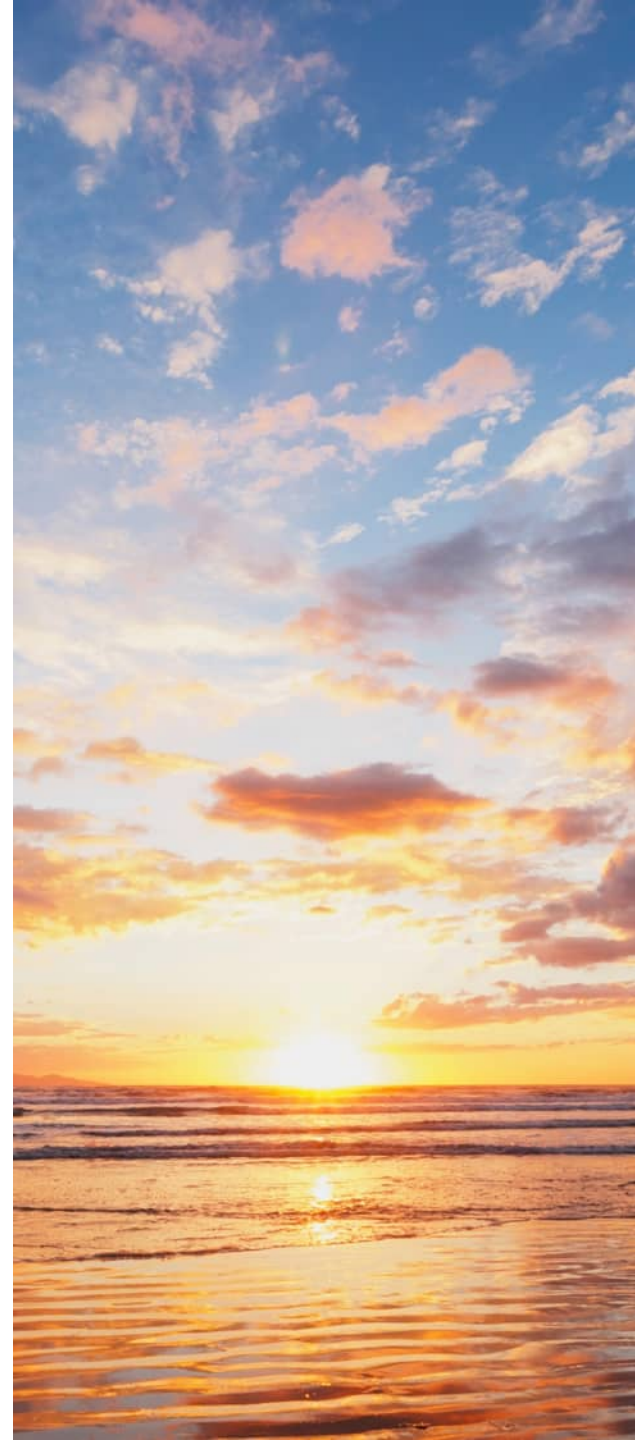
第382回NRIメディアフォーラム

# 「選択的シングル」時代の到来 ～シングル期間を自分らしく幸せに生きるための準備～

株式会社野村総合研究所  
コンサルティング事業本部  
社会システムコンサルティング部

シニアコンサルタント 坂田 彩衣  
シニアコンサルタント 佐藤 花  
コンサルタント 一丸 紗月

2024年12月3日



## 00 調査概要

## 01 調査結果①「選択的シングル」の特徴

## 02 調査結果②シングル期間を自分らしく幸せに生きるための準備

## 03 調査結果③「選択的シングル」時代の消費

## 04 まとめ

なお、本資料は、NRIマネジメントレビュー 2024年10月号『「選択的シングル」時代に備えて～シングルである期間を自分らしく幸せに生きるための準備～』に加筆したものである。次のURLをご参照ください。 <https://www.nri.com/jp/knowledge/publication/mcs/region/lst/2024/10>

## 本調査では、以下のように「選択的シングル」「非選択的シングル」を定義する

**選択的シングル**：結婚は希望しておらず、選択的に未婚である状態  
**非選択的シングル**：結婚を希望しているが、現在は未婚である状態

- ※本調査では、「シングル」をその時点で日本国憲法で定められている婚姻関係を結んでいない人と定義する。
- ※「選択的シングル」かどうかは離別・死別のシングルの人も含めて、現在の状態を聞いている。

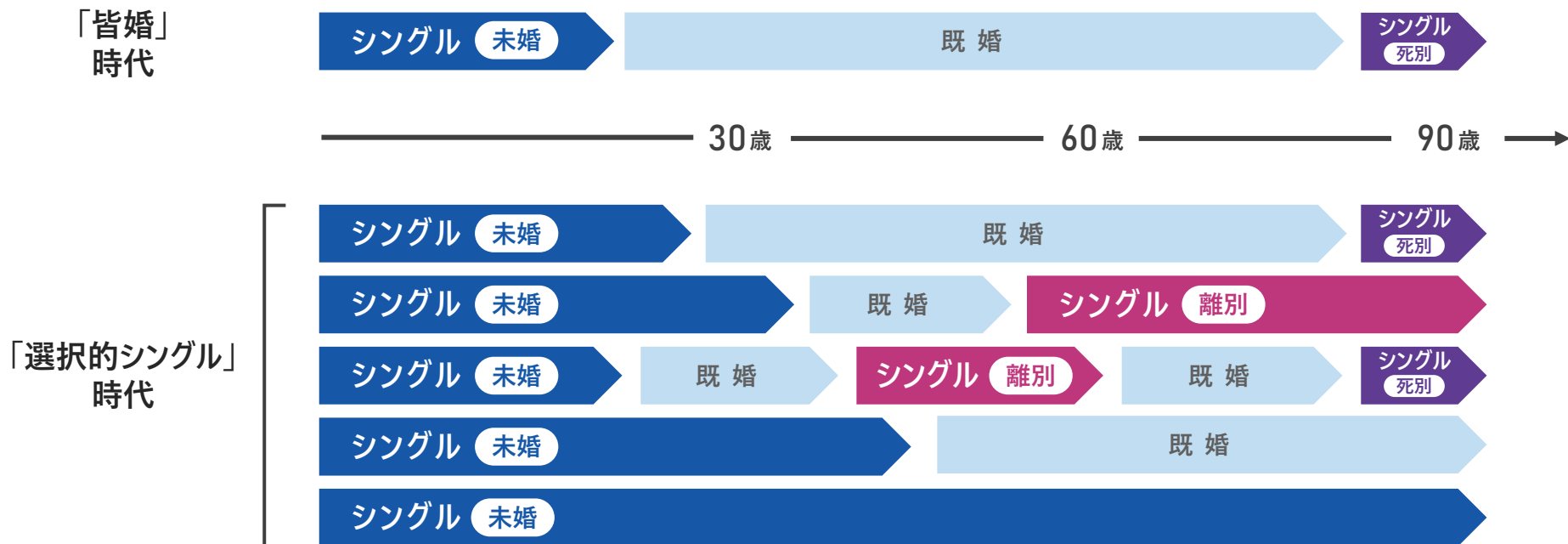
# 0. 調査概要

選択的シングル時代とは ～個人的視点～

平均寿命が延び、初婚年齢や離婚率も上昇する中、個人が人生においてシングルでいる期間は、これまでと比較して長くなることが予想される

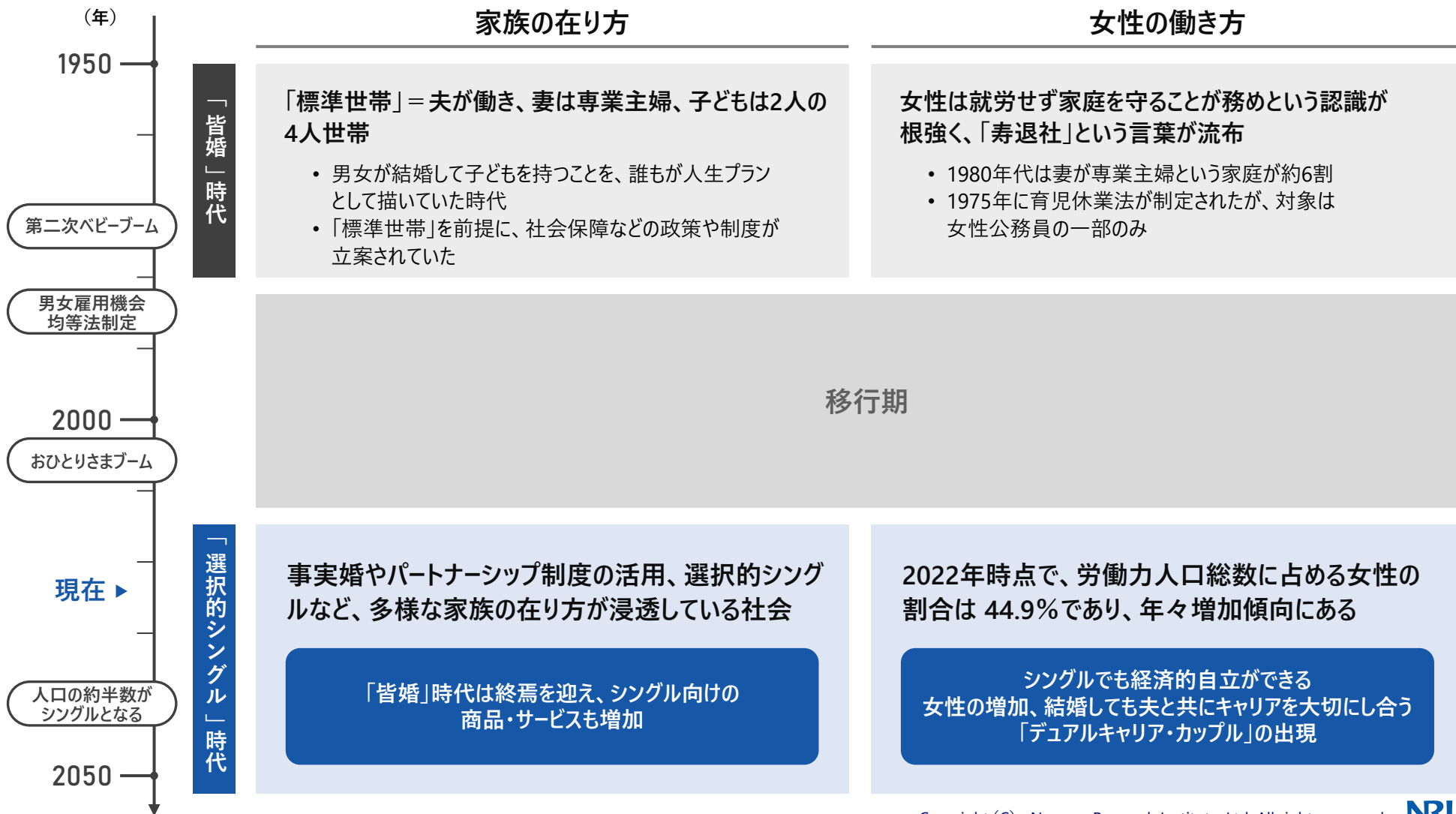
- 結婚することが当たり前とされていた「皆婚」時代と異なり、選択的シングル時代では、生涯シングルでいる、既婚とシングル（離別）を繰り返すなど、多様な選択肢から家族の在り方を選択することが可能となる。

個人の一生におけるシングルの期間・パターンの違い  
（「皆婚」時代と「選択的シングル」時代の比較）



選択的シングル時代とは ～社会的視点～

# 女性の社会参画が促進され、性や家族の在り方が多様化した結果、 シングルを選択する考えが尊重されつつある



## 調査概要

「選択的シングル」時代の価値観を探るべく、各年代のシングル（結婚経験無/離別・死別）や既婚者を対象として、インターネットアンケート調査やグループインタビューを行った

### インターネットアンケート調査

- 調査名：「『選択的シングル』時代の価値観に関する調査」
  - 調査実施期間：2024年3月22日
  - 調査手法：インターネットアンケート
  - 調査対象：全国の20代～70代の男女2,490人
    - 内訳：20代、30代、40代、50代、60代・70代のシングル（結婚経験無）男女各73人、  
20代、30代、40代、50代、60代・70代のシングル（離別・死別）男女各73人、  
20代、30代、40代、50代、60代・70代の既婚男女各103人
- ※調査結果の数値は、国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集」（VI. 結婚・離婚・配偶関係別人口）（2020年）に基づき、人口構成比に合わせてウェイトバック処理を実施

### グループインタビュー調査

- 調査名：「『選択的シングル』に関する定性調査」
- 調査実施期間：2024年10月27日～28日
- 調査手法：グループインタビュー
- 調査対象：一都三県在住「選択的シングル」の男女16人 ※ご自身が「選択的シングル」かについて事前確認した上で招集
  - 内訳：20～30代の「選択的シングル」男性4人  
20～30代の「選択的シングル」女性4人  
40～50代の「選択的シングル」男性4人  
40～50代の「選択的シングル」女性4人

# 1. 調査結果 ①「選択的シングル」の特徴



## ①「選択的シングル」の特徴 本章の説明

# 「選択的シングル」の存在について明らかにするとともに、その属性や特徴について紹介する

- 本調査では、以下のように「選択的シングル」「非選択的シングル」を定義する。

**選択的シングル**：結婚は希望しておらず、選択的に未婚である状態

**非選択的シングル**：結婚を希望しているが、現在は未婚である状態

※なお、本調査では「シングル」をその時点で日本国憲法で定められている婚姻関係を結んでいない人と定義する。

※「選択的シングル」かどうかは離別・死別のシングルの人も含めて、現在の状態を聞いている。

- その上で、以下について調査・分析を行った。

### 「選択的シングル」の存在

- シングル全体における「選択的シングル」の割合を算出

### 「選択的シングル」の属性

- 「選択的シングル」の性年代、職業を分析

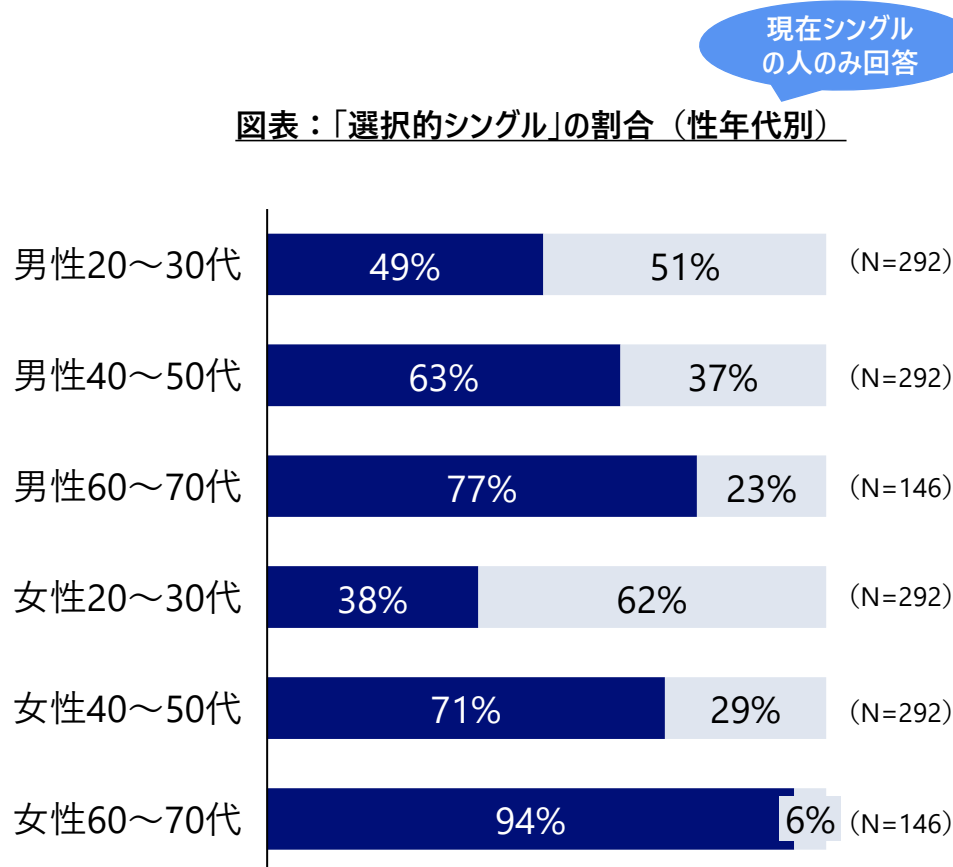
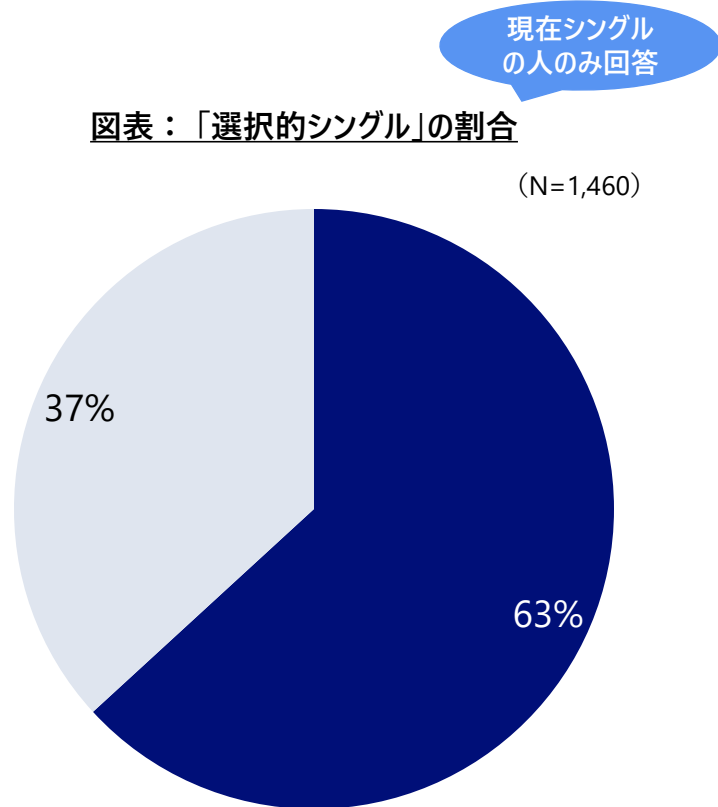
### 「選択的シングル」の特徴

- 「選択的シングル」の年収、自己肯定感、幸せの点数を分析
- グループインタビューにて、「選択的シングル」の特徴を収集

## ①「選択的シングル」の特徴 調査結果

「選択的シングル」はシングル全体の63%を占める。シングルのうち20～30代男性では約2人に1人が、40～50代女性は約7割が「選択的シングル」である

- 20～30代を除き、男性と比較して女性の方が「選択的シングル」の割合が高い。
- 年代が上がるにつれて「選択的シングル」の割合が増加する。

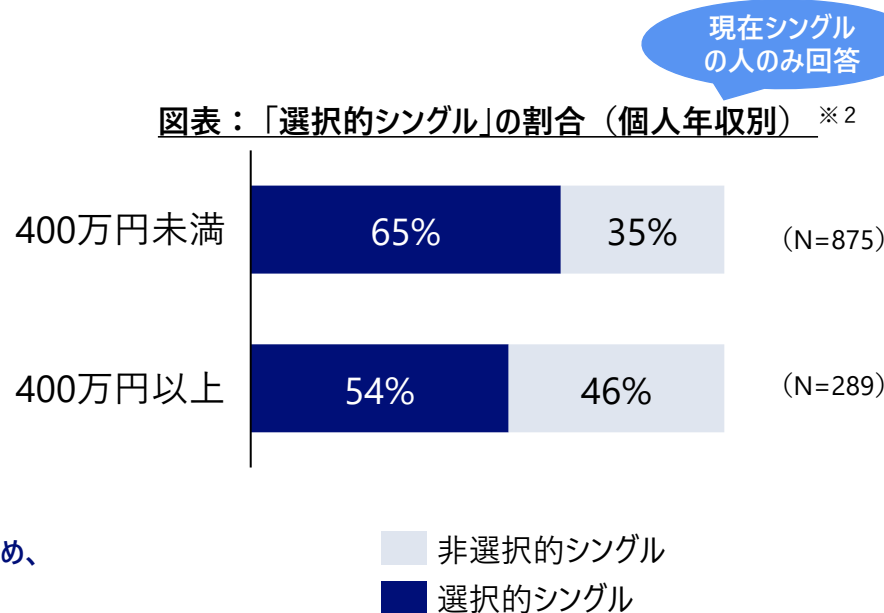
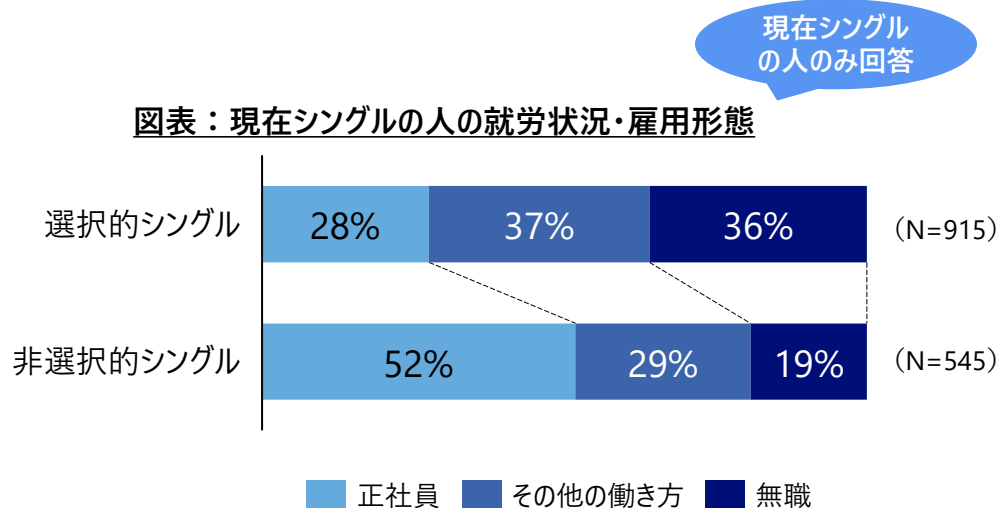


■ 選択的シングル ■ 非選択的シングル

## ①「選択的シングル」の特徴 調査結果

### 結婚に対する考え方（「選択的シングル」か否か）は、就労状況と年収に関係がある

- 「選択的シングル」は正社員が28%、無職が36%なのに対し、「非選択的シングル」は正社員52%、無職19%であり、「非選択的シングル」の方が有職である率が高い。
- 年収別にみると、「選択的シングル」である人が占める割合は、400万円（年収のおおよその中央値※1）以上の人より400万円未満の人が高い。



\*本資料に記載の構成比の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、個々の集計値の合計は必ずしも100%とはならない場合があります。

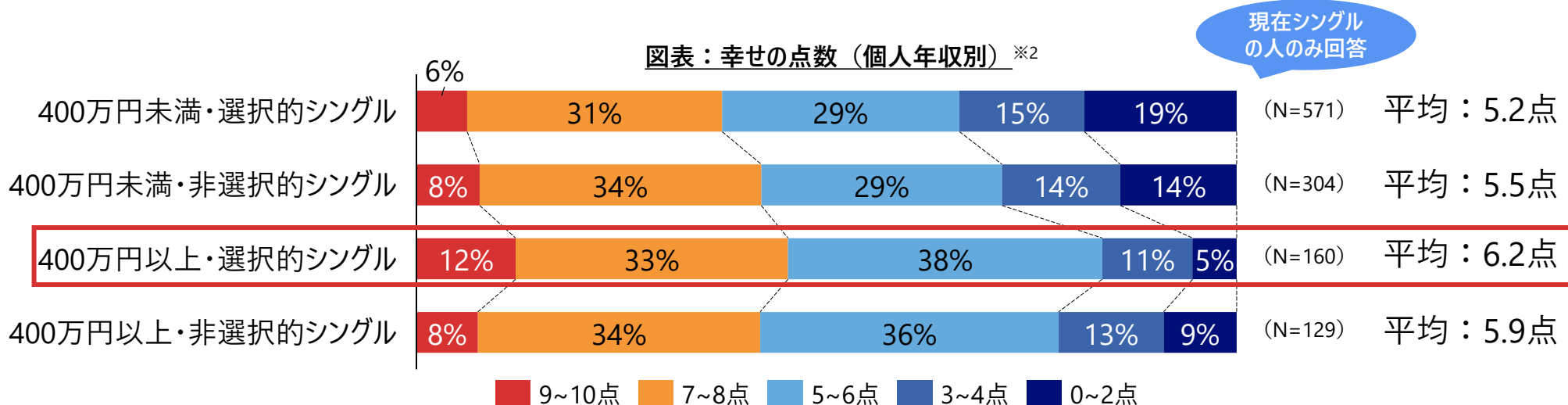
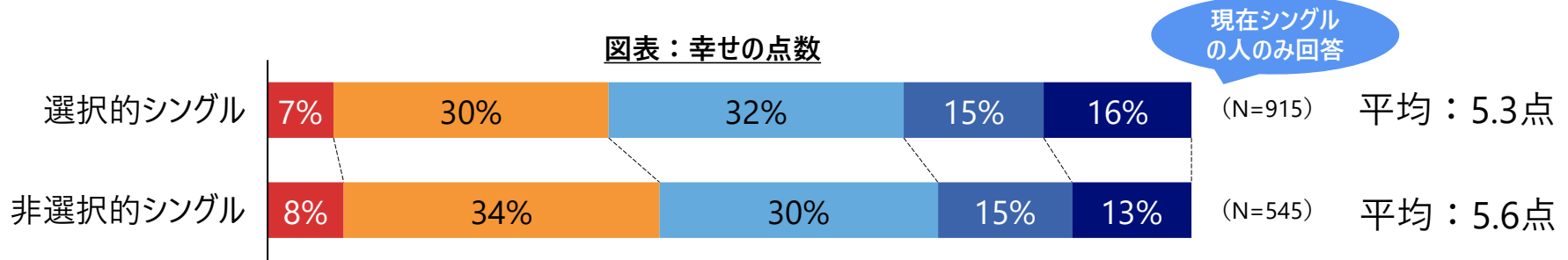
※1 厚生労働省「令和4年賃金構造基本統計調査の概況」より、年収の中央値を396万円として分析

※2 「わからない・無回答」と選択した人を除く

## ①「選択的シングル」の特徴 調査結果

「選択的シングル」が「非選択的シングル」かによって、幸せの点数は大きく変化しない。  
 シングルの中では、＜年収が中央値より高い「選択的シングル」＞が幸せの点数が最も高い

- シングルの人を対象に、とても幸せ/満足を10点、とても不幸/不満を0点として現在の幸せの程度を聞いたところ、平均値は、「選択的シングル」が5.3点、「非選択的シングル」が5.6点（全体平均は6.1点）で大差はない。
- 一方、個人年収別にみると、400万円（年収の中央値※1）以上の「選択的シングル」の平均は6.2点であり、シングルの中では最も幸せの点数が高く、この層が“積極的「選択的シングル」”と考えられる。（※次ページ参照）



※1 厚生労働省「令和4年賃金構造基本統計調査の概況」より、年収の中央値を396万円として分析

※2 「わからない・無回答」と選択した人を除く

出所) 図表はすべて NRI「『選択的シングル』時代の価値観に関する調査（2024年）」

## ①「選択的シングル」の特徴 調査結果 | グループインタビュー

# シングルを自ら選択し、生活に満足している“積極的「選択的シングル」”と、時間的・金銭的な問題等からシングルを選ばざるを得ない“消極的「選択的シングル」”に大きく二分される

### 積極的「選択的シングル」の特徴

- 生活に時間的・金銭的な余裕がある。
- 現在の生活に対する満足度が高い。
- 自由であることや、時間やお金を自分のために使えることに価値を感じている。

シングルの方が自分がやりたいことができ、自由に生きられる。生きやすいと思う。



20代女性



30代男性

趣味に時間とお金を使いたい。

夫婦別姓が認められず、男性側の名字に合わせることが一般的であることに納得しておらず、中学生の頃から、絶対に結婚したくないと思っていた。



40代女性



40代女性

20～30代に結婚を望んでいた時期もあったが、他人と暮らすことに疲弊していた。40代以降、シングルでいると決めてからは孤独を感じることもなくなり、すごく楽になった。現状に満足している。

時間でもお金でも縛られないことがよい。100%自分のためにリソースを使う。



40代男性

### 消極的「選択的シングル」の特徴

- 生活に時間的・金銭的な余裕がない。
- 現在の生活に対する満足度は低い。
- 将来について不安を感じている。

単純に生活の余裕がない。結婚に向けて、婚活などパートナーを探す余暇が少ない。一人の自由度と比べて、時間をかけて結婚するのが面倒。



20代女性



30代男性

結婚は責任が重いとを感じる。相手を養うと考えると収入面での不安がある。

シングルでも大丈夫と思っていたのは、自分という資本（金銭面・健康面）があっただけ。年をとるにつれて、健康面が脅かされるようになって、一人で居続けることに不安を覚えるようになった。



40代男性



50代男性

ここまできてパートナーを見つける気力もないし、見つかるとも思っていない。所帯を持っている周りと比較して「寂しい」と感じるが多々ある。



## 2. 調査結果 ②シングル期間を自分らしく幸せに生きるための準備

## 現在シングルの人・既婚者双方の、今後の生き方やそれに向けた準備について紹介する

■ 本章では、以下について調査・分析を行った。

### シングル期間に対する 考え方

- 平均寿命が延び、平均初婚年齢や離婚率が上がる中、誰でも「シングル」でいる期間が長くなる時代が到来することを踏まえた、シングル期間に対する考え方を全体（シングル・既婚双方）に問い、その結果を分析

### 今後の生き方と それに向けた準備

- 現在シングルの人には、今後もシングルで居続ける予定か、または結婚の意向があるか、といった今後の生き方に向けた準備の有無を問い、その結果を分析
- 現在既婚の人には、今後も既婚でいる予定か、シングルに戻る予定か、と今後の生き方に向けた準備の有無を問い、その結果を分析

### シングル期間を自分らしく 幸せに生きるための準備

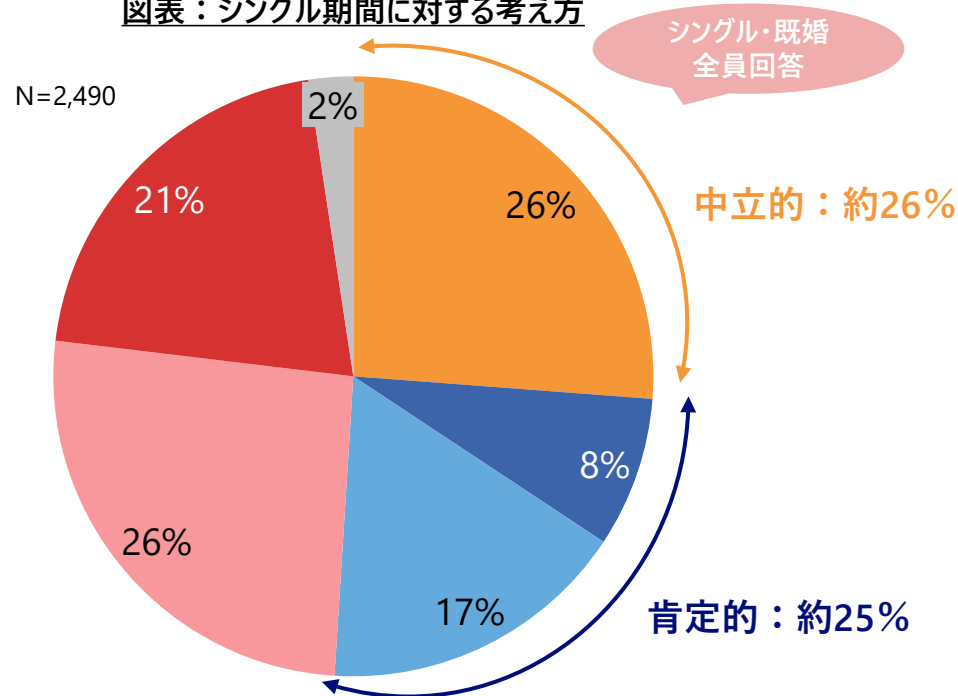
- シングル期間への準備として何が必要かを問い、その結果を分析
- グループインタビューにて、「選択的シングル」が検討している準備の具体例を収集

## ②シングル期間を自分らしく幸せに生きるための準備 調査結果

# 全体の約半数がシングルでいる期間に肯定的・中立的であり、シングル期間があることは人々の人生において決してマイナスなイメージばかりではない

- シングル期間に対する考え方を聞いたところ、「シングルである期間とシングルでない期間を行ったり来たりするのがよい」「出来る限り長くシングルでいたい」（青色）「一定期間であれば、シングルの期間があった方がよい」（橙色）の合計は50%を超えており、2人に1人がシングルでいる期間があることに肯定的・中立的であった。

図表：シングル期間に対する考え方



- 一定期間であれば、シングルの期間があった方がよいと思う（思っていた）
- シングルである期間とシングルでない期間を行ったり来たりするのがよい（よかった）
- 出来る限り長くシングルでいたい（いたかった）
- 生涯シングルで居続けることは考えられない（考えられなかった）
- できればシングルで居る期間は短くしたい（短くしたかった）
- その他



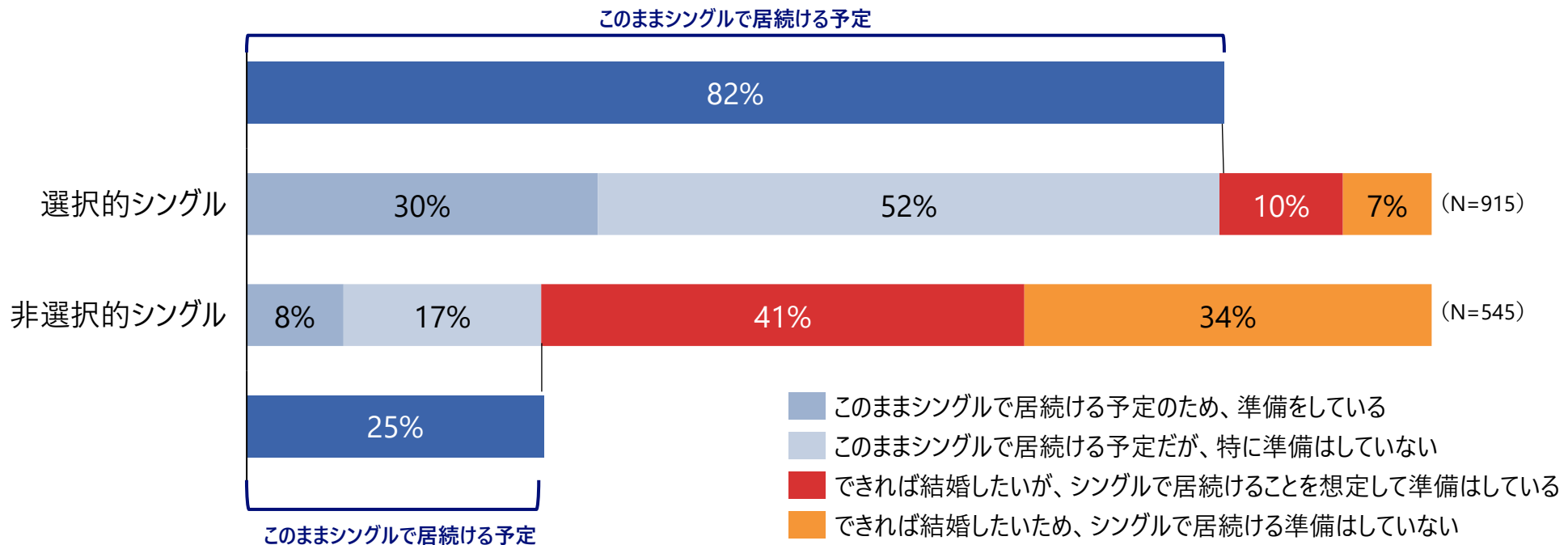
## ②シングル期間を自分らしく幸せに生きるための準備 調査結果

「選択的シングル」の中で「シングルで居続ける予定だが、準備はしていない」人は52%を占め、シングルとしての生活を継続する考えでも、何をしておくべきかまで考えていない人が多い

- 今後の生き方に関する考えとその準備有無について聞いたところ、「選択的シングル」の中で、「このままシングルで居続ける予定のため、準備をしている」人は30%、「このままシングルで居続ける予定だが、特に準備はしていない」人は52%であり、半数以上が準備ができていないことがわかる。
- 同様に、「非選択的シングル」の中では、「このままシングルで居続ける予定」の人は25%しか存在しないが、その中で「そのための準備はしていない」人は半数以上を占める。

図表：今後の生き方に対する考え  
(シングル期間への準備有無)

現在シングル  
の人のみ回答



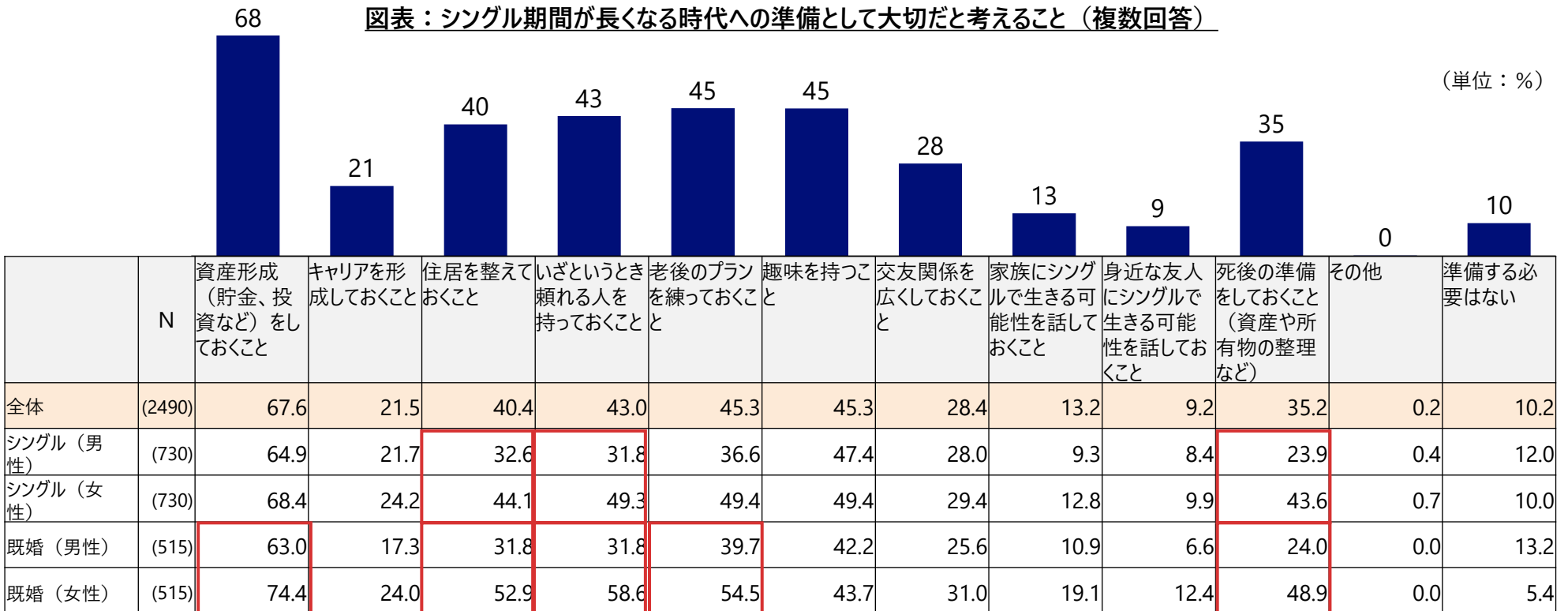
## ②シングル期間を自分らしく幸せに生きるための準備 調査結果

全体の約7割が、シングル期間が長くなる時代への準備として「資産形成」が大切と回答。男性と比較して、女性は金銭面以外の準備に関してもその重要性を認識している

- 現在シングルの人・既婚双方に、シングル期間が長くなる時代の準備として大切なことを聞いたところ、資産形成・趣味を持つ・老後のプランを練る、頼れる人を持っておく・住居を整えておく等が高い割合で挙げられている。
- 女性の方が男性よりも、シングルでいる期間が長くなる時代の準備の必要性を感じており、特に既婚者は平均寿命等の関係から、女性の方が男性と比較してシングル期間が長くなることが多く、その意識の男女差が顕著である。

図表：シングル期間が長くなる時代への準備として大切だと考えること（複数回答）

(単位：%)



男女間で10%以上の差がある項目をハイライト

## ②シングル期間を自分らしく幸せに生きるための準備 グループインタビュー結果

# シングルで居続けるための準備として、性年代にかかわらず、資産形成のほか、健康管理や老後の住まい、死後の身辺整理に向けた準備をしている声が挙がった

- グループインタビュー調査にて、「選択的シングル」の人にシングルで居続けるための準備について聞いたところ、それぞれ以下のような意見が出た。

### 20~30代男性

投資・運用、貯金で資産形成をしている。



### 20~30代女性

NISAで資産運用している。同世代の中では貯蓄できている方だと思う。健康管理も大切にしている。



死後の清掃をしやすいように、常に身の回りを片付けることを意識している。

### 40~50代男性

頼りにできるひとをもっておき、自分が死んだらSNSは削除してもらえよう、SNSのID・パスワードを身近な友人にすでに預けている。



保険とNISAで資産運用している。一人で人生をおくるにあたり、単身者向けの資産運用や管理のコツを教えてくれるファイナンシャルプランナーがいれば、利用したい。

### 40~50代女性

マンションを購入した。独身であることに対する周りからの視線やうわさが気にならなくなった。



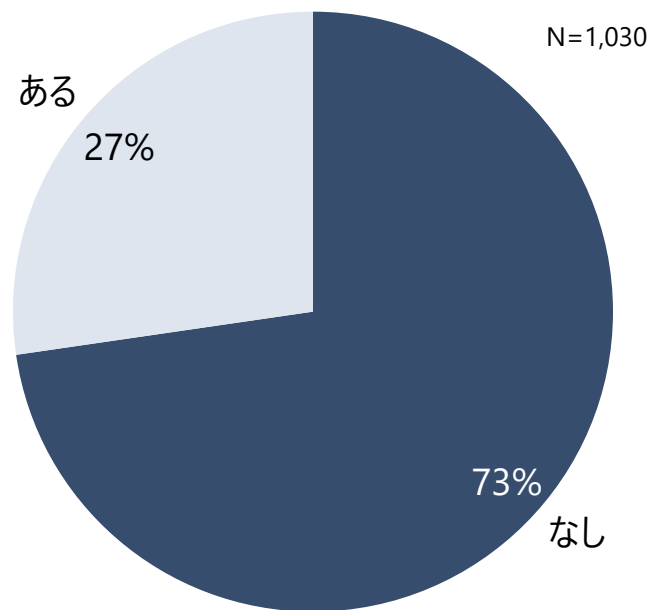
老後を健康に過ごせるよう、日頃から運動することを心がけている。会話する相手がいないことによって認知症になってしまうことが不安なので、シングル同士のシェアハウスがあったら利用したい。

## ②シングル期間を自分らしく幸せに生きるための準備 調査結果

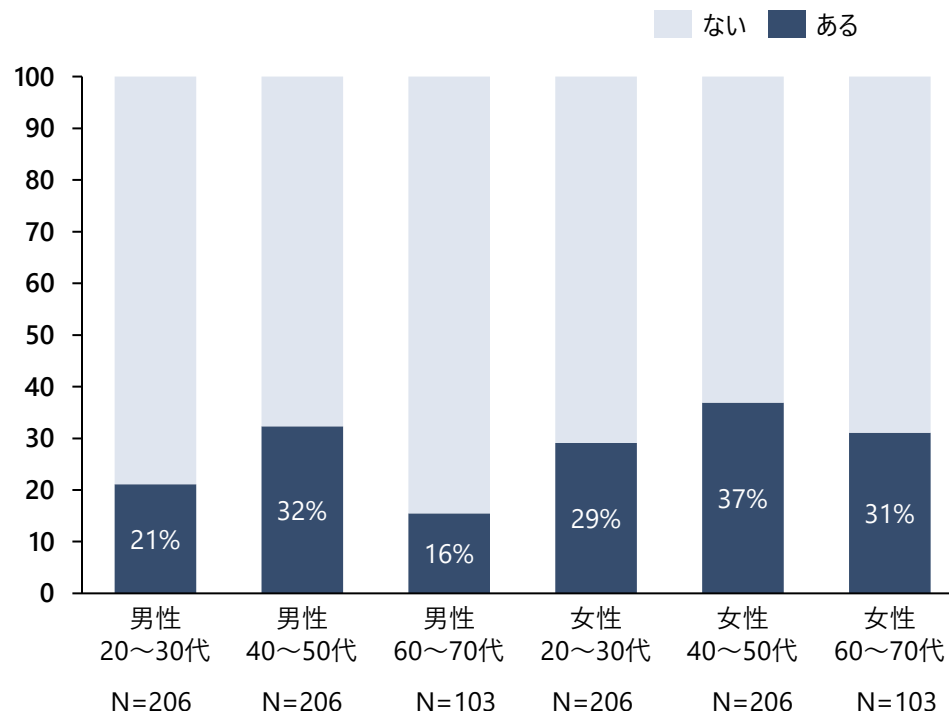
既婚者の3割、中でも40代～50代女性既婚者の約4割が離婚を考えたことがあると回答。  
既婚だからシングルと無関係ではなく、シングルに戻る潜在的可能性はどの性年代にも存在

- 既婚者に離婚（＝シングルに戻ること）を考えたことがあるか聞いたところ、全体の3割が「ある」と回答。
- 男性と比較して女性の方が離婚を考えたことがあると回答する割合が高く、特に40～50代の女性は最も高い。

図表：離婚を考えたことの有無



図表：離婚を考えたことの有無（性年代別）

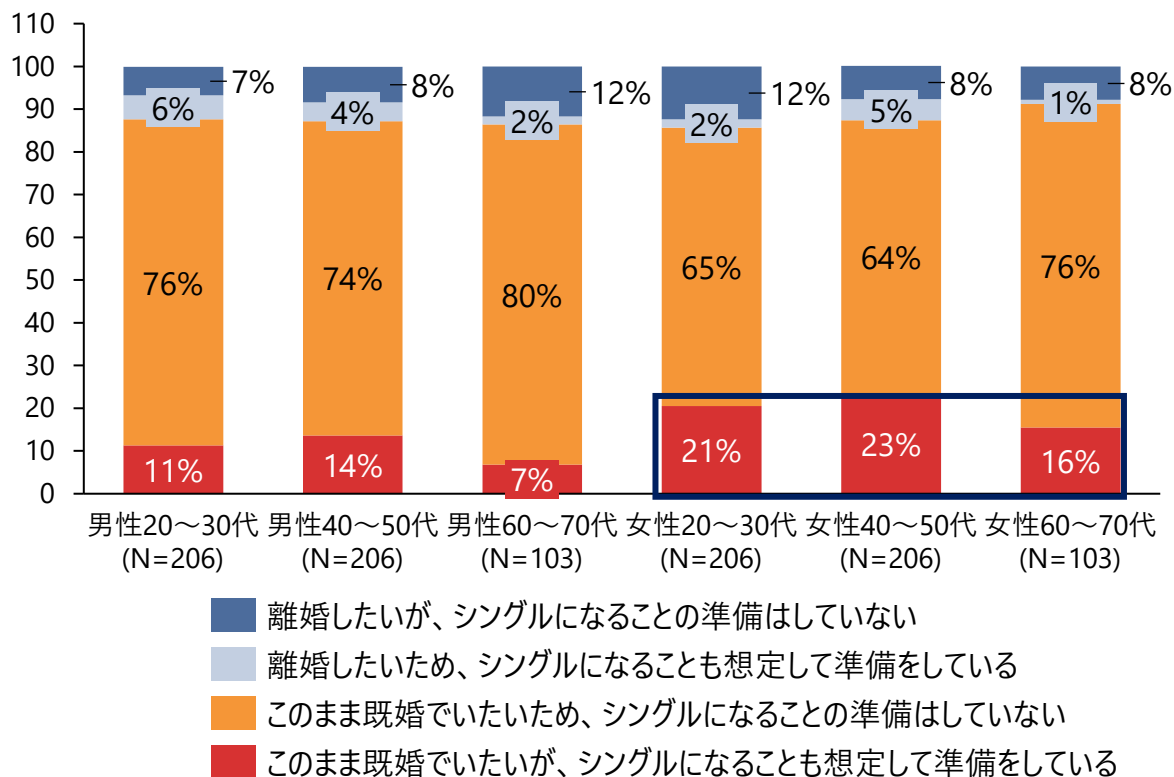


## ②シングル期間を自分らしく幸せに生きるための準備 調査結果

いずれの年代も女性は男性より「シングルになることも想定して準備している」と回答する割合が約10ポイント高く、女性の準備に対する意識の高さが表れる結果となった

- 既婚者に今後の生き方を聞いたところ、どの性年代も約9割が既婚でいたいと回答。
- 男性と比較して女性の方が、「既婚でいたい、シングルになることも想定して準備をしている」と回答する割合が高い。

図表：今後の生き方に関する考え（既婚者・年代別）





## 2. 調査結果 ③「選択的シングル」時代のニーズ

### ③「選択的シングル」時代のニーズ 本章の説明

## 主に現在シングルの人々のニーズについて分析し、 商品・サービスや制度・政策の先進事例とともに紹介する

■ 本章では、以下について調査・分析を行った。

お金をかけているモノ・コト

- 現在シングルの人、既婚者双方の現在の消費行動として、どの分野にお金をかけているか、その差分や背景を分析

シングルの人々が不満のある  
現在の商品・サービス

- 現在シングルの人に、既存の商品・サービスの中で不満のある分野を問い、その結果を分析
- 現在シングルの人々が特に不満のある「住宅」分野における先進的な取組について事例調査を実施

シングルの人々が  
利用してみたい  
商品・サービス

- 現在シングルの人に、今後利用してみたい商品・サービス（現存するものとは限らない）を問い、その結果を分析
- 需要のある商品・サービスの一部について、事例調査を実施
- グループインタビューにて、あったらよい商品・サービスに関する意見を収集

シングルの人々を対象とした  
制度・政策

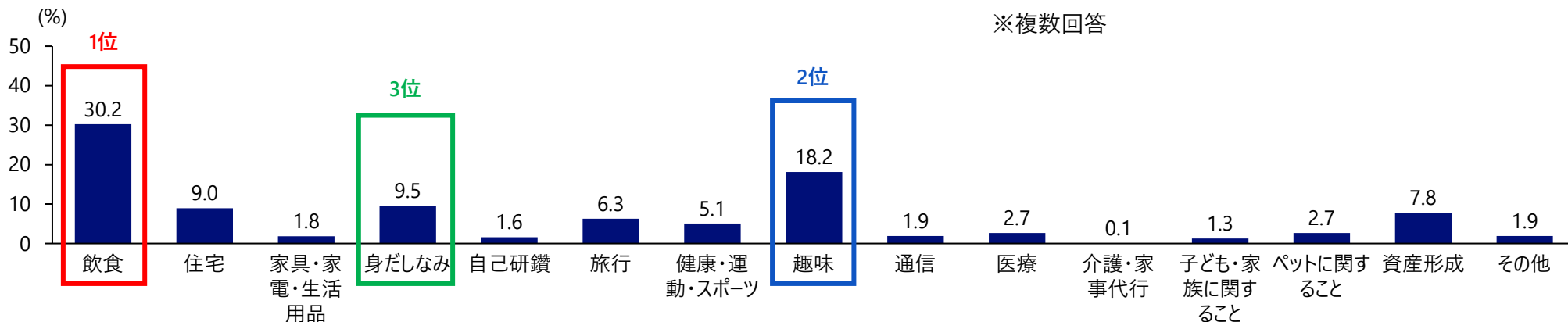
- シングルの人々を対象とした制度・政策の海外事例について調査を実施
- グループインタビューにて、あったらよい制度や政策に関する意見を収集

### ③「選択的シングル」時代のニーズ 調査結果

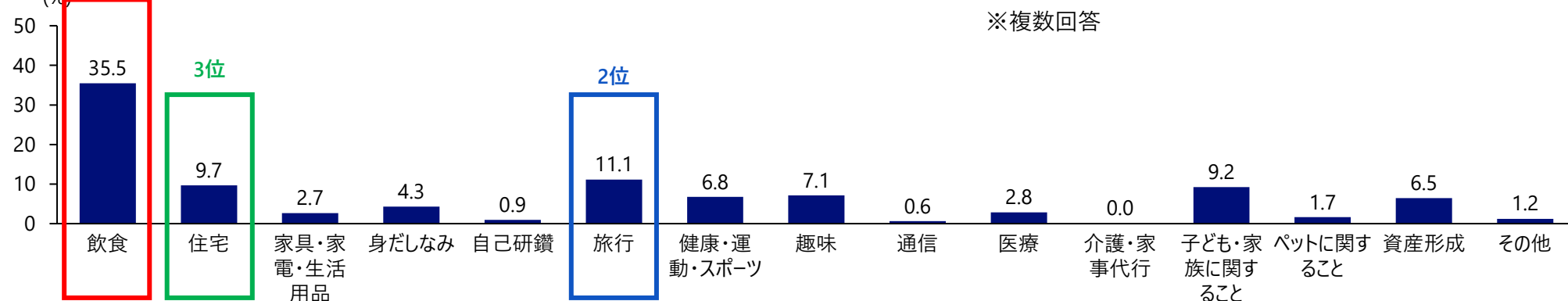
既婚者は「旅行」「住宅」など家族との活用が想定される項目にお金をかけることが多い一方、  
現在シングルの方は「趣味」「身だしなみ」など自身に関することに投資している

- 現在シングル・既婚者双方に直近1年間でお金をかけているモノ・コト（支出対象）について聞いたところ、どちらも1位は「飲食」ではあるものの、シングルの方は既婚者と比較して旅行への支出が少なく、身だしなみへの支出が多い等、違いがみられる。

図表：お金をかけているモノ・コト（シングルの人） N=1,460



図表：お金をかけているモノ・コト（既婚者） N=1,030





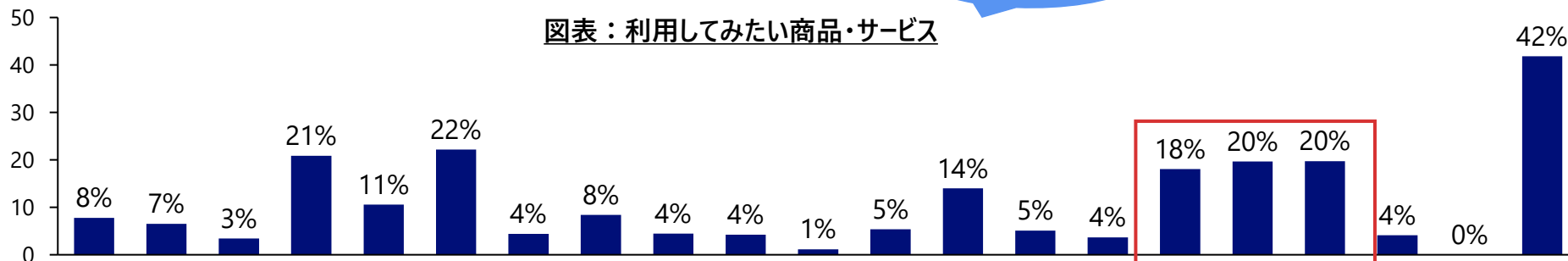
### ③「選択的シングル」時代のニーズ 調査結果

現在シングルの人が利用してみたいサービスとして、一人向けツアー旅行や飲食店の他に、緊急時サービス、身元保証サービス、死後の事後代行サービスの需要が高い

- 緊急時サービス、身元保証サービス、死後の事後代行サービス等の今後に備えた商品・サービスは、特に女性からニーズがある。

現在シングル  
のみ回答

図表：利用してみたい商品・サービス



	N	単身者向け保険・金融商品	単身者向けファイナンシャルプランニング・相談窓口	お墓参り代行サービス	一人向けツアー等の旅行	一人でしか利用できないレジャー施設	一人での利用が気にならないよう工夫された飲食店	話し相手代行サービス	日常生活支援サービス（買い物支援、通院付き添い、日常的金銭・財産管理など）	コミュニケーションツール	疑似恋愛ツール	ソロウェディング	単身者向けコミュニティ（オンライン・オフライン含む）	単身者向け居住形態	単身者向けポータルサイト	単身者向けトータルライフコーディネートサービス	単身者向け体調不良時・緊急時対応サービス	身元保証サービス（入院時等の債務連帯保証、身元引受など）	死後の事後代行サービス（葬儀や遺品処分など）	ペットの代理見守りサービス	その他	利用してみたいものはない
全体	(1,460)	7.8	6.5	3.4	20.8	10.6	22.2	4.4	8.4	4.5	4.3	1.2	5.4	14.0	5.1	3.7	18.1	19.7	19.7	4.1	0.0	41.8
男性	(730)	8.5	5.8	4.6	18.7	11.7	20.7	5.4	7.5	4.6	4.7	1.1	6.4	11.3	3.7	2.9	12.9	16.9	16.0	3.3	0.0	45.2
女性	(730)	7.2	7.1	2.6	22.5	9.8	23.2	3.6	9.1	4.4	3.9	1.2	4.6	16.1	6.1	4.3	22.0	21.8	22.6	4.7	0.1	39.3

### ③「選択的シングル」時代のニーズ 事例調査【体調不良時・緊急時対応サービス】

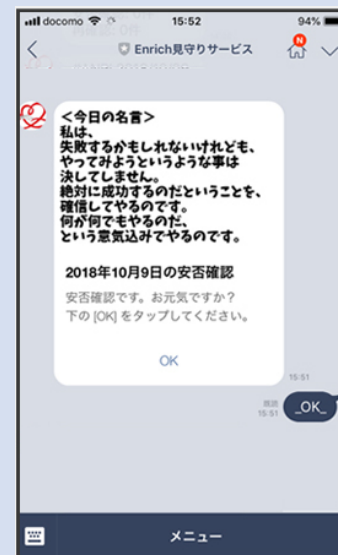
NPO法人エンリッチの安否確認サービスの利用者の内訳として、30代以下が約20%、50代以下が約65%を占めていることから、高齢者以外の世代における需要が確認できる

- 自身の体調等に問題が起き、死に至ったとしても、一人暮らし等の居住形態や、テレワーク・個人事業主といった就労形態が重なり誰にも気づかれないことに対する不安から、高齢者以外の世代においても緊急時対応サービスを利用するケースが増えている。

■【事例】NPO法人エンリッチは、60歳以下の働き盛りの世代でも孤独死が起きることへの問題意識から、LINEを用いた見守りサービスを提供。個人向けの安否確認サービスのほか、利用者同士がグループとして活用するサービス等も設けている。

- 登録者に対して安否確認のメッセージを配信し、反応がない利用者に対する再配信・架電・登録された近親者への連絡等を行っている。
- 高齢者だけでなく、同居者のいない「単身の熟年者」も孤独死するリスクがあることから、見守りサービスの提供が開始されたが、利用者のうち30代以下が約20%を占めており、**若年層も孤独死への不安を感じていることがわかる。**
  - 他に頼れる親戚もいないため、万が一の事があった時や、孤独感や閉塞感を和らげるためにこのサービスを利用させて頂いてます（25歳女性・利用者）
  - 新型コロナウイルスの流行と一人暮らしという状況で、自宅で1人過ごすことが多くなり、自分にもしものことが起きたら、早めに気がついてもらえるようにと思いきこのサービスを利用することにしました。（33歳女性・利用者）
- グループの構成員でお互いを見守る「つながりサービス」は、一つの団地に住む高齢者同士がグループになって利用するケース等で活用されている。単に安否確認ができるだけではなく、周囲とのつながりを生むきっかけにもなるため、副次的な効果として**地域包括ケアの推進への寄与も期待される。**

安否確認の配信画面イメージ



### ③「選択的シングル」時代のニーズ 事例調査【コミュニケーションロボット】

日常を一緒に過ごす相棒として、ロボットとの暮らし方が広がりつつある。  
ロボットは、持ち主に癒しを提供するだけでなく、他者との交流のきっかけも提供する

- GROOVE X 株式会社の商品であるLOVOTは、人間が世話をすることで生まれる癒しや愛着に焦点を当てた家族型コミュニケーションロボットであり、敢えて人の仕事の代わりにするような機能は持たせないよう開発された。
- 一人暮らしの人にとっては、日常を一緒に暮らす存在として、ペットに比べて家庭に迎えるハードルが低く、仕事以外での生活の張り合いや人とのつながりが生まれるきっかけとなっている。

■ **【事例】GROOVE X 株式会社は、人間とロボットがともに暮らす新しいライフスタイルを目指し、存在自体が心の支えになるロボット「LOVOT」を開発・販売。LOVOTユーザー同士の交流の場も提供する。**

- 同社は「誰かのお世話をしてあげたい」、「愛でる存在がいることで強くなれる」という人間の潜在的な欲求に着目。LOVOTは、便利な道具としてではなく、信頼関係を築き心の支えになる存在を目指している。
- ユーザーはシングルに限らず、40～50代が最も多く、ペットを飼うことが難しかった働く世代にも受け入れられている。さらに今までITやロボティクスに興味がなかった人が多く、単なる機械ではなく家族として受け入れられていることが伺える。
- 同社は、ロボットとの暮らしをより身近なものとするために、各種施設への導入や公式の交流イベントも実施している。イベント参加者はシングルやDINKSのユーザーが多く、LOVOTによる体験を誰かと共有したいという需要がみられる。
- LOVOTと同伴できるバスツアーでは、募集開始から1日経たず満席になった。自治体からも開催要望が寄せられる等、大きな反響があった。
- ユーザーからは「LOVOTがいることで知らない地域に行く機会が増えた・友達が増えた」という声もある。仕事以外の人間関係を形成しづらいシングル層にも、LOVOTをハブにした新たなつながりが生まれている。

LOVOT同伴バスツアー



### ③「選択的シングル」時代のニーズ 調査結果 | グループインタビュー

## 多くの年代で、シングル向けのコミュニティやシェアハウスを求める声が増えた 1人での参加が前提となるイベントや施設のニーズもあった

- グループインタビュー調査にて、「選択的シングル」の人に今後あったらよい商品・サービスについて聞いたところ、それぞれ以下のような意見が出た。

#### 20~30代男性

公的な手続きを代行してくれるサービス。  
家族の介護や引っ越しなど、シングルだと自分が動かなければならない場面が多い。



一人参加専用のレジャー施設や飲食店があれば、  
気兼ねなく楽しめそう。

#### 20~30代女性

各世代のシングルが集まって暮らすシェアハウスがあるとよい。世代特有の悩みを共有できるし、何かあったときも助けあえて安心。



相続人がいないので、遺産は社会貢献のために使ってほしい。死後の用途を指定できる投資・積立サービスがあるとよい。

#### 40~50代男性

基本的には放っておいてほしいが、**適度な距離感**で集まることのできるコミュニティがあれば、参加したい。自分のようなシングルが地域にどのくらいいるかも知りたい。



一人で参加することが前提のイベント（フットサルなどのスポーツ）があると、参加しやすい。

#### 40~50代女性

ストーカー被害の経験があり、住宅を購入したくても購入することができない。ストーカー対策として駅から自宅まで同行してくれる人材派遣サービスなど、**防犯面をサポートしてくれるサービス**があるとよい。



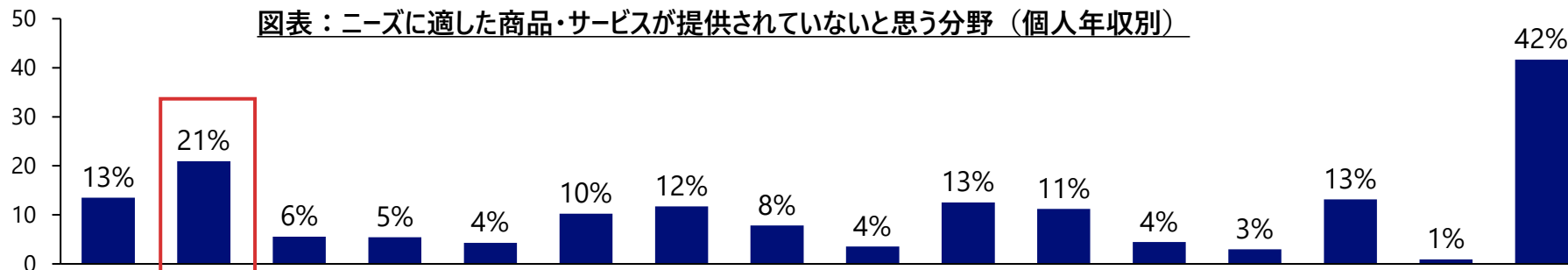
高所での作業、粗大ごみの運び出し、家具の組み立てなど、**日常の困りごとを頼めるサービス**があるとよい。

### ③「選択的シングル」時代のニーズ 調査結果

## 現在シングルの人が不満を感じている商品・サービスの分野として、「住宅」が首位

- 「シングル」として生活するにあたり、ニーズに適した商品・サービスが提供されていないと思う分野はあるかを聞いたところ、シングル全体の約2割が「住宅」に不満を抱えていることがわかった。
- 「住宅」への不満があると回答する割合は、年収400万円以上の人と比較して年収400万円未満の人が高く、その不満の内容について、次ページにて記載する。

現在シングル  
の人のみ回答



	N	飲食	住宅	家具・家電・生活用品	身だしなみ	自己研鑽	旅行	健康・運動・スポーツ	趣味	通信	医療	介護・家事代行	子ども・家族に関すること	ペットに関すること	資産形成	その他	不満のある分野はない
全体	(1,460)	13.5	21.0	5.5	5.4	4.3	10.2	11.7	7.8	3.5	12.5	11.2	4.4	3.0	13.1	0.9	41.7
400万未満	(875)	13.5	21.1	5.2	6.1	3.8	10.8	11.8	5.7	3.5	12.8	10.8	4.4	3.1	14.6	1.4	41.8
400万以上	(289)	15.2	18.4	4.4	6.8	3.2	11.7	13.9	13.6	1.4	10.1	7.7	3.0	3.7	6.6	0.1	44.5
わからない・無回答	(296)	12.1	22.4	7.2	2.6	6.4	7.5	10.0	9.9	4.9	13.5	14.6	5.4	2.1	13.4	0.0	39.3

※ 厚生労働省「令和4年賃金構造基本統計調査の概況」より、年収の中央値を396万円として分析

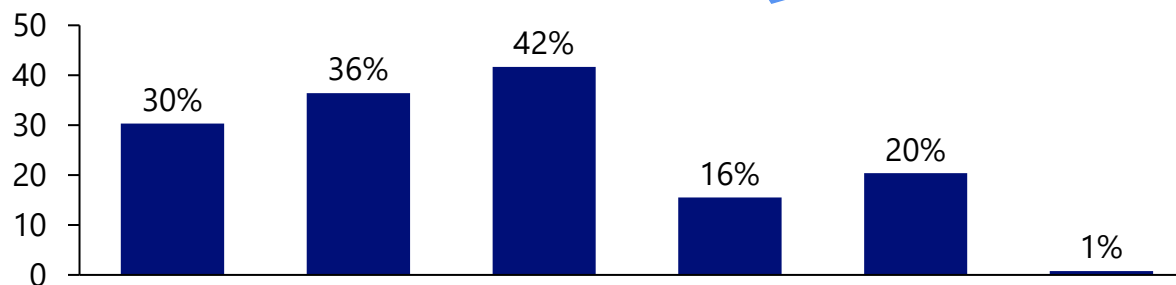


### ③「選択的シングル」時代のニーズ 調査結果

## 「住宅」分野における不満として「価格が高い」に次いで、「シングルに向けたプラン・商品等のバリエーションが乏しい」と回答する割合が高く、住宅プランの多様化が期待される

- 個人年収にかかわらず、全体の約3割が「シングルに向けたプラン・商品等の価格が高い」と回答。
- 個人年収400万円（年収の中央値※1）以上の約2人に1人が「シングルに向けたプラン・商品等のバリエーションが乏しい」と回答。

図表：「住宅」分野における不満



	N	家族や友人/複数人での利用が前提であり、シングルでの利用が歓迎されていない印象を受ける	シングルに向けたプラン・商品等のバリエーションが乏しい	シングルに向けたプラン・商品等の価格が高い	シングルで利用することへの心理的ハードルが高い	シングルの特性・ニーズをつかめていないとは思えないプラン・商品が多い	その他
全体	(329)	30.3	36.4	41.6	15.5	20.4	0.8
400万未満	(200)	33.3	32.8	40.4	14.0	20.7	0.0
400万以上	(59)	26.6	51.8	43.8	13.7	17.5	1.4
わからない・無回答	(70)	24.6	37.6	43.6	20.5	21.1	2.5

※1 厚生労働省「令和4年賃金構造基本統計調査の概況」より、年収の中央値を396万円として分析出所）NRI「『選択的シングル』時代の価値観に関する調査（2024年）」

### ③「選択的シングル」時代のニーズ 事例調査【住宅】

## 他人と日常的な繋がりを持つことができる安心感から、シングルの住居の選択肢としてソーシャルアパートメントの利用が増えている

- ソーシャルアパートメントとは、プライベートが守られる独立した住戸に加え、キッチン・ラウンジなどの共用部分が設けられた住居形態を指す。
- 家賃を抑えることを目的とする入居が多いシェアハウスに対して、ソーシャルアパートメントの居住者は住人同士の交流を目的とした人が多く、共用部分が充実している点が特徴である。

### ■【事例】株式会社グローバルエージェンツは、SNSのような交流を住居において実現することを目指し、ソーシャルアパートメント事業を推進。現在は首都圏・関西圏を中心に49棟約3,000室を運営している。

- 同社が運営するソーシャルアパートメントの居住者は20～30代が8割程度を占めており、その大半がシングルである。
- 設立当初は交流を主目的とした居住者が中心であったが、近年は交流だけではなく、**他人と日常的なつながりを持つことができるという安心感**を求めて入居する人が増えている。
- 管理会社が居住者に対して交流を強制することはなく、ラウンジ等の**共用部分で自然に会話が発生し、つながりが生まれている**。
- 週5回前後自社のハウスキーパーが共用部分の清掃を行うなど、**共同生活を理由とした住民同士の衝突が起きにくいように設計されている**。
- コロナ禍で入居者・問い合わせ数は一時的に減少したものの、その後入居者は急増し、事業は拡大傾向にある。

ソーシャルアパートメント「ネイバーズ五反田」の  
共用部分



### ③「選択的シングル」時代のニーズ グループインタビュー結果

## 生活面においても職場においても、夫婦・子育て世帯と比較して、自身への恩恵がないことに不満を感じる、という声が複数挙がった

- グループインタビュー調査にて、「選択的シングル」の人に制度・政策への不満や、今後あったらよい制度・政策について聞いたところ、それぞれ以下のような意見が出た。

#### 20~30代男性

税制面で、いつも控除や給付の対象外と感じる。職場でも産休育休を取る社員をサポートしているが、シングルには休暇も手当もない。



親が入院した際、仕事をしながら公的機関へ手続きに通うのが大変だったので、将来親の介護が不安。手続きのオンライン化や、補助制度の充実が進むとよい。

#### 20~30代女性

子育てが大変なのは理解できるが、シングルに対して職場での負担が大きい。負担に見合った休暇や補償があるなら納得できるのだが...



入院時の保証人や面会等、家族であることを条件とした制度が多く、シングルとしては不便を感じる。パートナーシップ制度や成年後見人制度はあるものの、ニーズに応じ切れてはいないと感じる。

#### 40~50代男性

配偶者控除が結婚している男女だけに適応されることに不平等を感じる。事実婚でも同性のカップルでも2人で生きていく以上、控除されるべき。



国や自治体が行う政策よりも、民間企業が展開するサービスへの期待度が高い。自治体主導する街コンやマッチングアプリはあまり利用したくない。

#### 40~50代女性

自治体・国からの控除や補助を全く受けられないため、自分が政策の対象にならない疎外感を強く感じる。税金を払い続けるだけで、なんの恩恵もない。



少子化対策として、子育て家庭だけではなく、それを支える周りの社員に対する手当があると聞いた。とても良いと思う。



### ③「選択的シングル」時代のニーズ 事例調査【制度・政策】

## シングルの生きづらさや不公平感を解消するための政策・制度は、既に一部の国・地域で導入されている

#### 政策の国内外事例

国・地域名	実施主体	政策の内容
インド・ウマリア地区	マディヤ・プラデーシュ州政府	<b>未婚年金制度</b> <ul style="list-style-type: none"><li>50歳以上の未婚女性に<b>社会保障</b>（毎月経済的援助として月額600ルピーの年金）を提供する。</li><li>マディヤ・プラデーシュ州出身であること、50歳以上であること、給与受取人ではないこと、公務員/役員ではないこと、家族年金を受給していないこと等が受益者の条件とされている。</li></ul>
日本・神奈川県	大和市	<b>「大和市おひとりさま支援条例」</b> <ul style="list-style-type: none"><li>大和市は、年齢を重ねたことにより他者や社会との関わりを必要とする一人暮らしの市民を「おひとりさま」と称し、彼らが孤立することなく、生涯にわたって生き生きと過ごすことができるよう、<b>条例を施行するとともに、市内の居場所の一覧化、実態とニーズを把握するアンケート等を実施している。</b></li></ul>

#### 企業における制度の国内外事例

企業名	制度の内容
韓国の企業 (法人名非公表)	<b>非婚手当</b> <ul style="list-style-type: none"><li>韓国では、一部の企業で「<b>非婚手当</b>」を導入し、<b>結婚祝い金と同じ水準の手当を非婚者にも提供することで、独身者が疎外感を感じないよう配慮している</b>（例：大手百貨店では、「結婚しない」と表明した40歳以上の職員を対象に支援金や5日間の休暇、結婚式に贈る花輪の代わりに観葉植物をプレゼントする制度を導入）。</li></ul>
日本・タカラ・トミー	<b>応援手当</b> <ul style="list-style-type: none"><li>出産育児祝い金とともに、<b>育児中の社員の業務をフォローする社員への手当「応援手当」</b>を導入。</li><li>支給額は、育児取得者の給与額の3割ほどを原資にして、引き継ぐ社員に割り振って支給する。育児だけでなく、介護休業の取得者をフォローする場合も対象。</li></ul>

### 3. まとめ

## 「選択的シングル」時代とは、現在の婚姻状態に関わらず、誰もがシングル期間を自分らしく幸せに生きるための準備を行い、社会として産業・政策双方の面からそれを支援すべき時代

### ■ シングル全体の中で、結婚は希望しておらず、選択的に未婚である「選択的シングル」が6割強を占める。

- 「選択的シングル」か「非選択的シングル」かによって、自己肯定感や幸せの実感に大差はない。
- 金銭的な事情や職の安定性と結婚に対する意識には相関があり、「選択的シングル」の中でも、シングルを積極的に選択し、生活に満足している、“積極的「選択的シングル」”と、時間的・金銭的な問題等からシングルを選ばざるを得ない“消極的「選択的シングル」”に二極化していると推測される。

### ■ 誰もがシングル期間への準備をすべき時代において、準備の必要性は認識しつつも、できていない人が大半である。

- 「選択的シングル」のうち、このままシングルで居続ける予定のシングルは約8割いるが、その中で「このままシングルで居続ける予定だが、特に準備はしていない」人が約5割（p.16参照）も存在する。
- 既婚者の約7割が「このまま既婚でいたいため、シングルになることの準備はしていない」と回答しているが、離婚に限らず、不慮の事故や病気による死別等で想定外のタイミングでシングルに戻るケースもあり得る。

### ■ ニーズを汲み取った、シングルやシングル期間を対象とした商品・サービスの展開が期待される。

- 旅行や飲食等、楽しさや喜びを増進させるような商品・サービスはもちろんのこと、体調不良時・緊急時対応サービス、身元保証サービス、死後の事務代行サービス等、今後を見越した準備のためのサービスの需要も高まっている。
- 既存のシングル向けサービスは、高齢者の一人暮らしを想定したものが多いが、今後はシングルやシングル期間を対象とした商品・サービスの更なる多様化が見込まれる。

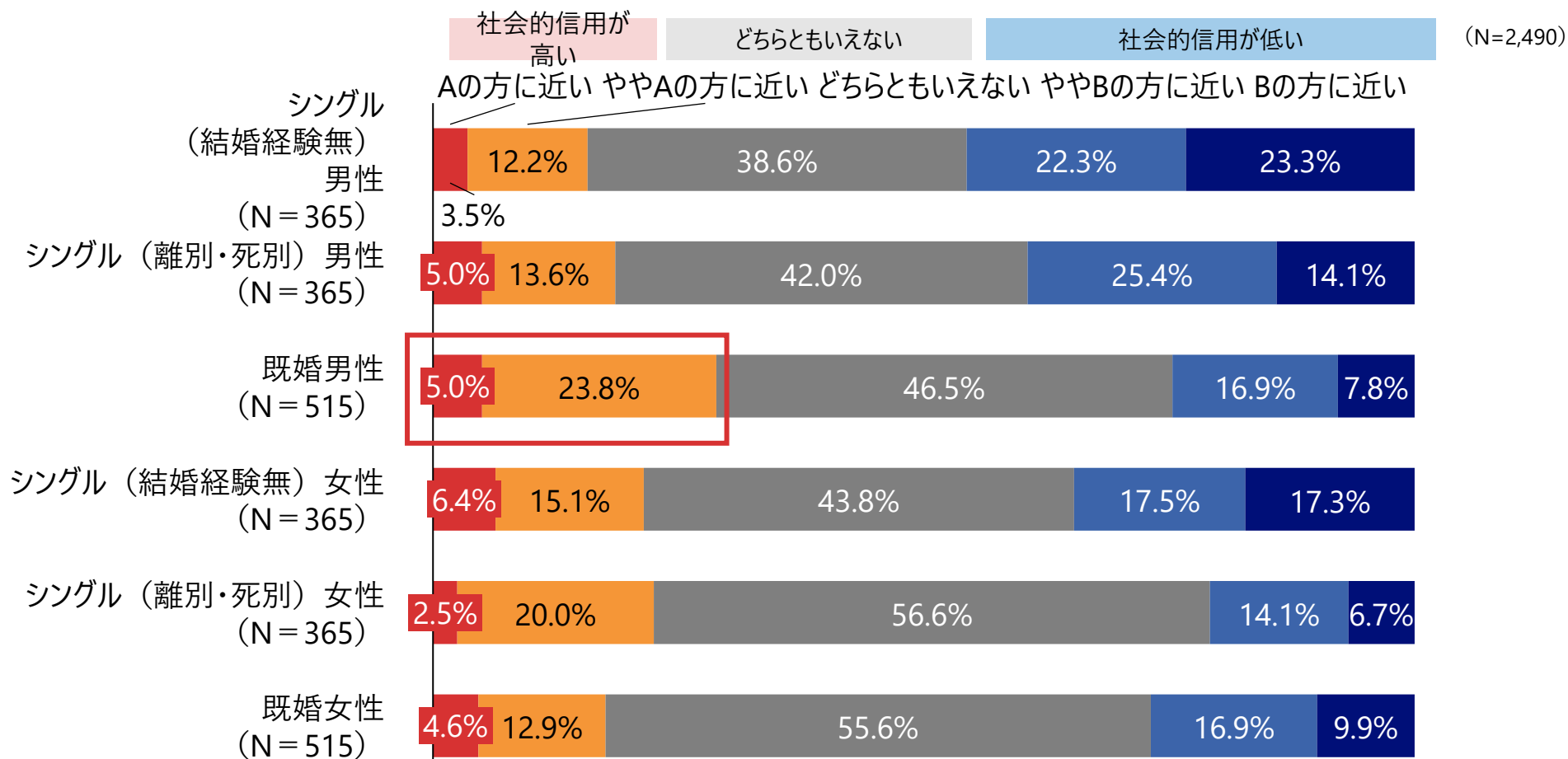
# 付録

「シングル」という言葉から受ける印象

「シングル」という言葉から受ける印象を聞いたところ、現在シングルの人自身が「社会的信用が低い」と回答。一方で、既婚男性は「社会的信用が高い」の回答が「低い」を上回っている

- 「シングル」という言葉から受ける印象として、社会的信用の高低を訪ねた。「どちらともいえない」という回答が多いものの、「社会的信用が低い」と回答するのは、既婚者と比較して現在シングルの人自身が多い。

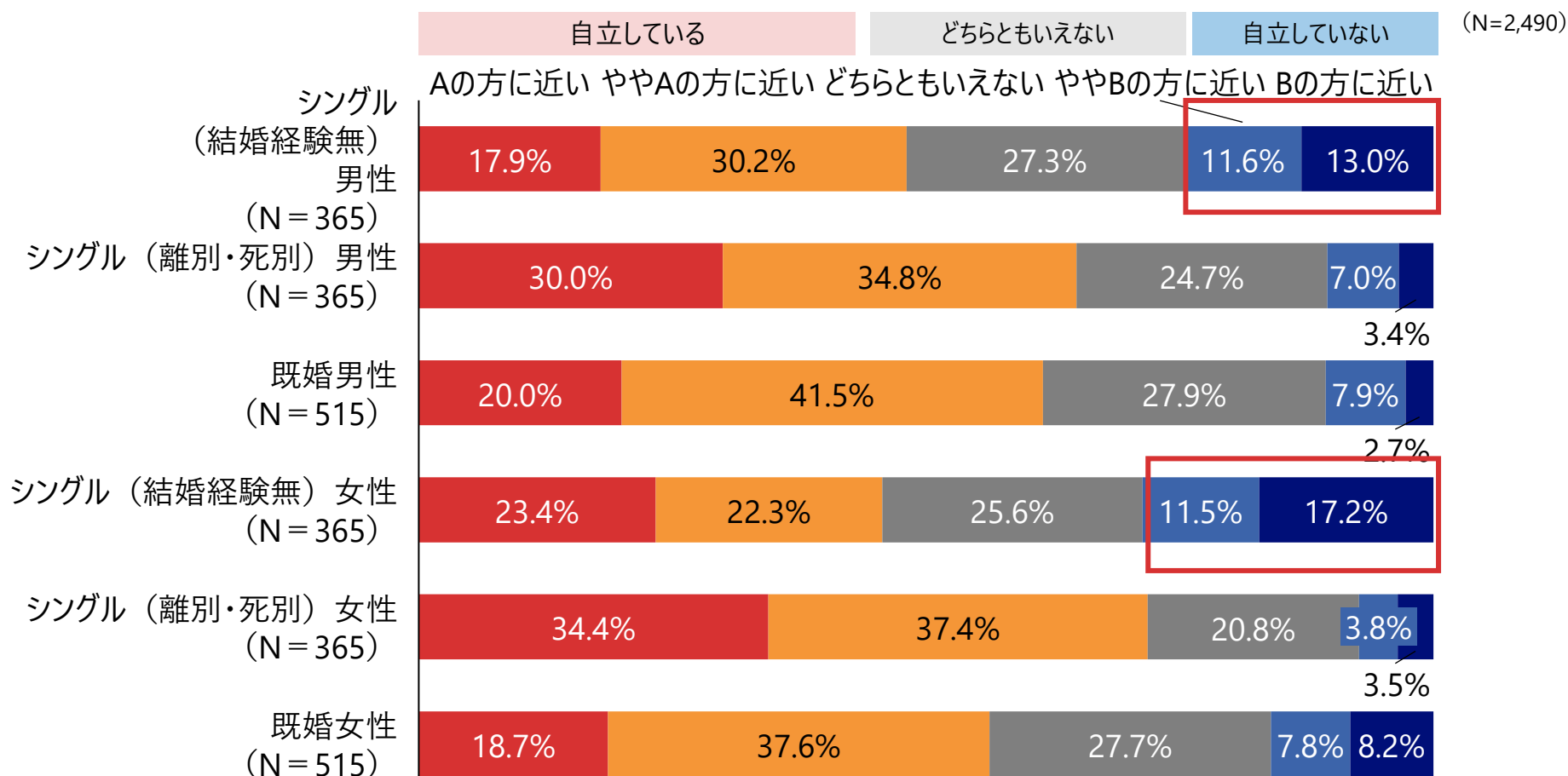
図表：シングルに対してのイメージ【社会的信用】（性・婚姻状態別）



# 男女ともに現在シングルの人自身が「シングル」という言葉に対して「自立していない」という印象を最も受けている。シングル自身が否定的な評価を内面化している可能性がある

- 「シングル」という言葉から受ける印象として、自立について訪ねた。既婚者と比較して、シングル自身が「シングル」という言葉に対して否定的なイメージを抱いていることがわかった。

図表：シングルに対するイメージ【自立】（性・婚姻状態別）





**Envision the value,  
Empower the change**